

東京証券取引所 プライム市場
証券コード 9824



泉州電業株式会社



決算説明会概要

[企業名] 泉州電業株式会社（証券コード：9824）

[決算期] 2025年10月期第2四半期

[日時] 2025年6月4日（水）10：30～11：30

[場所] 東京都中央区日本橋室町2-2-1

岡三証券株式会社室町本店14階セミナールーム

[登壇者] 代表取締役社長 西村元秀

取締役経営企画室長 福田勇

東京証券取引所 プライム市場
証券コード 9824



2025年10月期第2四半期 決算説明資料

泉州電業株式会社



表紙、毎度お馴染みですが、我々泉州電業グループが注力している分野です。これをイラストで表記をさせていただいております。

丸の左下から半導体、ロボット、EV自動車、右の方に行きまして、これはビニールハウス内の加温をする特殊ケーブルです。その次が太陽光、再生可能エネルギーの分野です。

それと最後が制御盤。これは機械に組み込むもの、コントロールするものも子会社と連携しており、表しております。

社名の下ビル等、当然建設関係、こちらの方にも携わっているというところで表現をさせていただいております。

右下の1118はカラフルなイラストは、2019年に電線工業会で電線の日が選定されました。奇しくもこの11月18日は、泉州電業の創立記念日ということで、宿命を感じております。

1. 事業概要
2. 2025年10月期第2四半期 決算概要
3. 中期経営計画（2024年12月9日発表）
4. 参考資料

目次です。

まず概要をご説明いたしまして、その次に今日のメインになります決算概要です。3番目の中期経営計画は昨年の12月に既に発表しておりますので、もう一度おさらいということで、ご説明させていただきます。

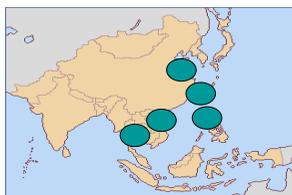
最後に参考資料をお付けしておりますので、ご確認いただきたいと思います。

1 . 事業概要

設立 昭和24年（1949年）11月18日
株式 東京証券取引所 プライム市場
資本金 25億 7,520万円
業種 商業（電線総合商社 業界トップクラス）
従業員 866名（平均年齢39.3才）
子会社 国内7社／海外7社（中国・台湾・タイ・フィリピン・ベトナム・アメリカ）
事業所 国内18拠点



アジア



アメリカ



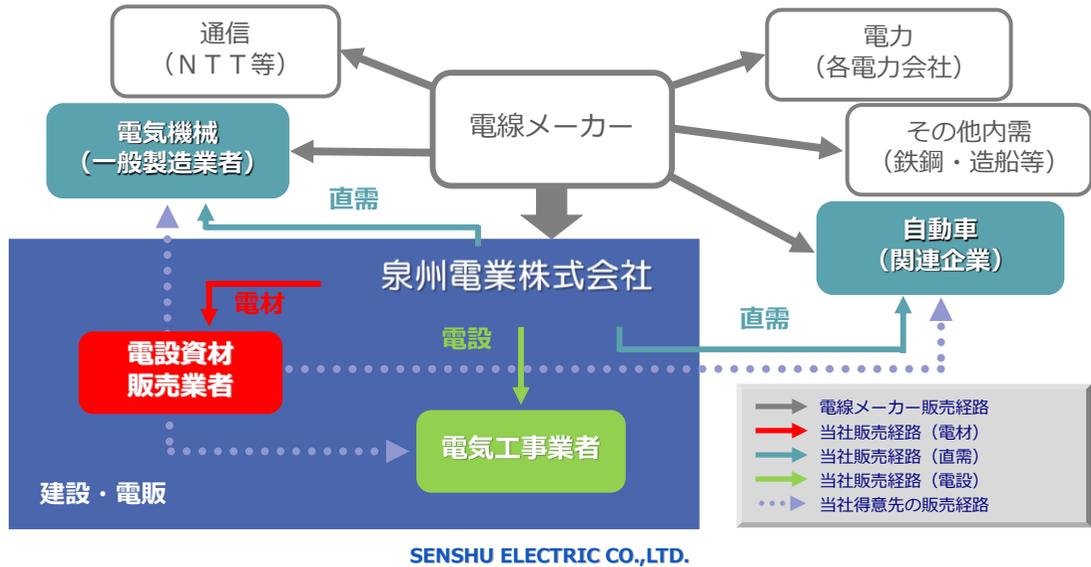
SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

5

まず事業概要ですが、先程も申し上げたように、1949年11月18日に設立をいたしております。今期で76期、76年の歴史になります。

東証のプライム市場に上場しておりまして、資本金は25億7520万円、分類が商業です。従業員数は866名、あと子会社数、事業所数は記載の通り、前期末より変更はございません。

日本全国、北は北海道、南は九州、沖縄までを全国的に網羅していること、海外は特にアジア圏を中心に活動しておりましたが、アメリカにも進出して販路を広げているところでございます。



こちらは電線の販売経路です。

我々泉州電業はこの青で囲まれた建設電販部門というフィールドで仕事を主にさせていただいております。

我々はメーカーではありませんので、基本販売商品は電線メーカー等から仕入れたものを電設資材販売業者（工事店に電線や工事材料類を販売されている問屋）の分野と、電気工事業者、いわゆるサブコンへ販売いたします。

関東、近畿等の上位約30社に、特に大型プロジェクトに関してはメーカーが直接売るのではなく、我々を経由して売るという経路を取っております。

この建設電販部門の中は電線工業会の出荷量の発表から手間どもの計算で、我々のシェアは今15.8%程になっています。年々少しずつ上がっております。

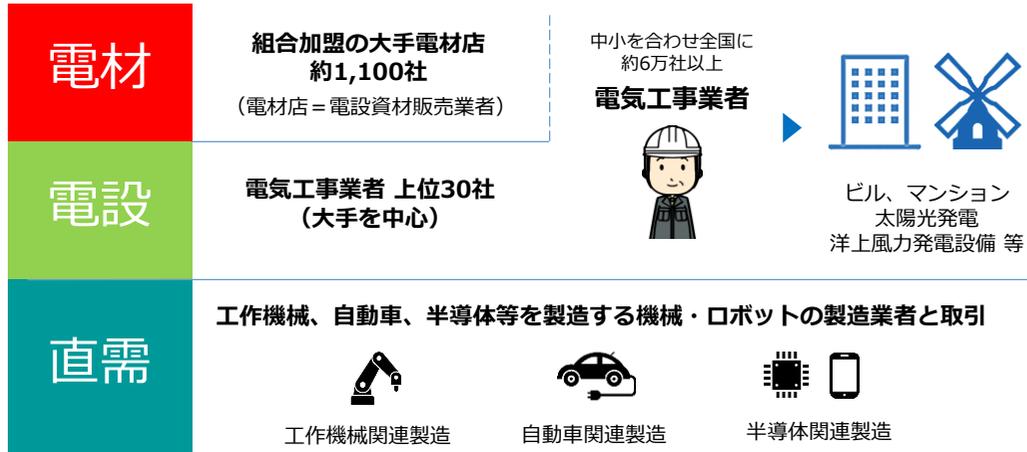
この青枠以外のところですが、従来電線メーカーが直接、通信、電気の機械製造業者、電力会社、あとは造船、自動車関連等へ販売されていますが、我々も電線メーカーと同じ立ち位置に立って、機械製造業者、工作機械や半導体製造装置、そういったところへダイレクトで販売をしております。

一方、自動車ですが、これは自動車の車載ハーネスではなくて、自動車の生産ライン、あとは関連する電池関係の生産部門のライン関係等に直接販売しているという形で販路拡大を進めております。ということで、従来この建設電販部門の中のフィールドにプラス、直需として、こちらの分野にも我々は販売経路を持っております。

主な得意先（イメージ）



〈得意先数 3,700社以上〉



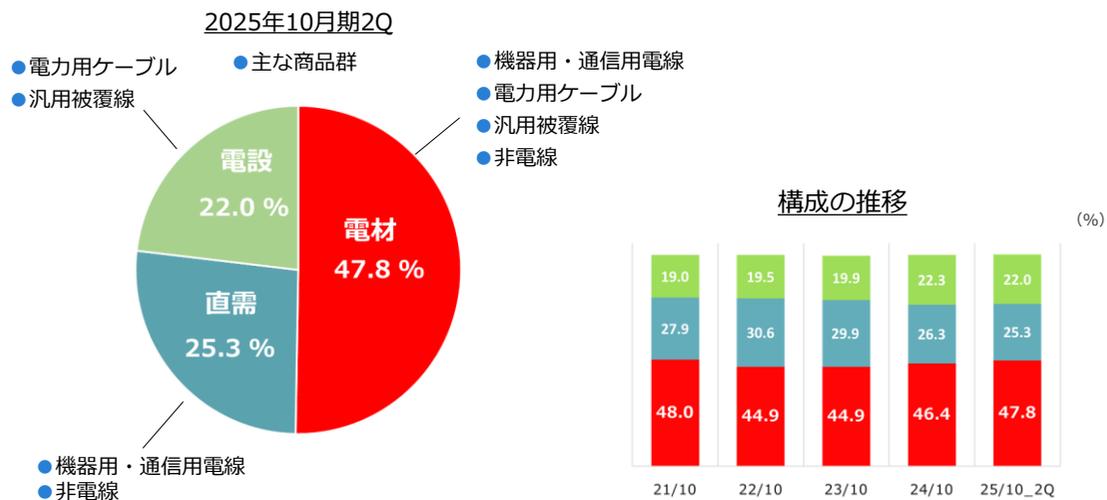
SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

その中身はそれぞれ我々社内で電材、電設、直需という言い方をしております。

電材向けですけれども、大体全国1,100社程ございまして、卸売りされる大体2割程度が電線の割合と聞いており、他の資材関係を電気工事会社等に販売されています。

電設は、先程申し上げた通り、大手上位約30社程ですが、我々がダイレクトで電線ケーブルを販売しているという形になっています。

最後は直需です。工作機械の関連製造業者、あとは自動車設備、それと半導体製造装置、前工程、後工程それぞれございますが、こちらへダイレクトに販売をしているというところです。



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

8

こちらはあくまでも泉州電業単体になります。

グループ全体の売上の約93%が泉州電業単体の売上でありますので、その主な構成比をお示ししております。

我々の歴史から言いましても、電材が一番大きい社内シェアとなっています。

この中間期で47%まで上がっています。

一方、直需ですが、半導体製造装置、工作機械、需要旺盛の時、30%を超える社内シェアまでありましたが、残念ながら25%まで落としているというところです。

一方、電設の工事関係は20%以上、今回は22%ですけれども、安定的な割合で推移をしております。

3つのビジネスモデル（強み）



1

JUST IN TIME 体制 (ジャスト イン タイム)

電線は約20万種と種類も多く重量物であり、保管場所や盗難等の観点から、在庫しづらい。当社は国内（札幌～沖縄）に倉庫床面積約7万㎡の物流拠点で**5万種以上**を品揃え、“**必要な時に必要な量**”に対応できる体制（**JUST IN TIME**）を整える。



2

オリジナル商品



ロボット等に使用されるケーブル= **FAケーブル**（Factory Automation/ファクトリーオートメーション）を電線メーカーと開発し、当社独自商品（**オリジナル商品**）として販売。多種多様なニーズを的確に捉え、技術商社としての役割を担う。

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

3

電線端末加工 (ケーブルアッセンブリ)

電線販売以外に端末を付属した電線や制御盤等、**小ロット・多品種・短納期**の加工ニーズに、全国**18拠点中8か所にある加工場**で対応。またグループ会社でも体制を整備し連携を図る。



あとはこのビジネスモデルです。冒頭ビデオでもありました通り3つ掲げております。

ジャストインタイム体制、オリジナル商品の販売、あとはケーブルアッセンブリを我々は同業他社との差別化と位置付けをしております。

特に1つ目のジャストインタイム体制です。取り扱っている電線ケーブルは、非常に重量物、嵩張ります。また昨今、電線類の盗難というのも非常に日本国内に起こっており、現場では手元に商品を置いておきたくないというところもございまして、我々は発注の連絡から24時間以内に現場にお届けするという体制を長年確立しています。これは全国約7万㎡の物流倉庫から直接納めるという形を取っております。

2つ目のオリジナル商品です。特にロボット関係のファクトリーオートメーション向けのケーブルで、先程申し上げた直需の分野が主になり、ユーザーの製造装置によって、いろんな特性がございまして、

よく曲がる、油に強い、当然耐久性等、いろんなニーズがございまして、それを我々営業の最先端でキャッチアップして、中小の電線メーカーと一緒にあって新しい商品を作っていくことを長年やっております。これをオリジナル商品と言い、泉州電業でしか購入できない商品群というもの販売しております。

3つ目、それに加えてケーブルアッセンブリ、電線を切って販売するだけではなく、先端部品まで付けてユーザーが機械装置にそのまま組み込める形で納入させていただくサービスを行っております。これは電線商社では数少ないところで、我々は全国8カ所でケーブルアッセンブリの加工場を持っておりまして、今年開設した名古屋のFAセンターもこの機能を有しております。

大量の加工品というわけではなく、どちらかというと小ロット、多品種、短納期の加工品を我々が担っているという形です。

ということで、この3つのビジネスモデルで他社との差別化を図っております。

2 . 2025年10月期第2四半期 決算概要

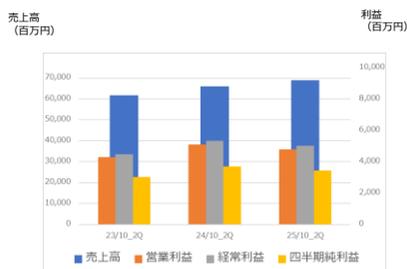
実績

- ・半導体製造装置向け及び工作機械向けで一部に需要の停滞も建設・電販向けが好調。
- ・銅建値平均は前期比9.2%増の144.3万円/ t

株主還元策

(配当金の増配及び自己株式の取得、消却)

- ・2025年10月期 年間150円予想(当初予想140円) 中間配当75円/株、期末配当75円/株(予想)
- ・取得済株式総数 10万株 取得価額総額 466,605,500円
(取得期間 2024年12月10日～2025年4月30日)
- ・自己株式の消却(50万株、消却後の発行済株式総数: 1800万株 2025年5月14日消却済)
- ・自己株式の取得(20万株、10億円(上限) 2025年5月1日から2025年10月31日まで)



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

11

今回の中間決算をご説明いたします。

まずはハイライトから実績ですが、冒頭社長からの説明ありました通り、売上は4.3%の増加、ただし利益の方が微減益という形になっております。

売上面は半導体製造装置向け、工作機械向け、こちらが一部停滞し、なかなか伸び悩んだ期になりました。一方、建設関係は需要が引き続き旺盛というところで、何とか下支えし、売上の増加はこの建設電販向けが要因となります。

販売するにあたって、やはり銅価格です。

製品原価、製品販売価格に影響し、前年同期に比べて9.2%の増加、1トンあたり144万円という金額で推移をしております。

今日また銅価格が改定されまして、145万円になっております。

あとトピックスとして、株主還元策です。増配の発表をさせていただいております。

理由は先程社長が申し上げた通りですが、2027年10月期を最終目標とする中期経営計画です。

配当性向並びに株主還元率、この達成に向けて今回増配を決定いたしました。

従来、前期130円の配当で、12月に140円の増配予想を出しましたが、今回10円プラスという形で、実績でいうと前期から20円のアップ、予想は10円アップの増配を発表しました。

あと、自己株式です。取得と消却、それぞれ行っております。

昨年12月に消却と自己株式の取得、4月末で一旦終わりました、また新たな発表をしております。

連結損益計算書の概況



(単位：百万円、百万円未満切捨て)

	2024/10_2Q		2025/10_2Q		増 減	
	金 額	%	金 額	%	金 額	%
売上高	66,125	100.0	68,982	100.0	2,857	4.3
売上原価	55,651	84.2	58,515	84.8	2,863	5.1
売上総利益	10,473	15.8	10,467	15.2	△ 6	△ 0.1
販管費	5,368	8.1	5,669	8.2	300	5.6
営業利益	5,104	7.7	4,798	7.0	△ 306	△ 6.0
営業外収益	281	0.4	302	0.4	21	
営業外費用	58	0.1	75	0.1	16	
経常利益	5,327	8.1	5,025	7.3	△ 302	△ 5.7
特別利益	112	0.1	—	—	△ 112	
税金等調整前中間純利益	5,440	8.2	5,025	7.3	△ 414	△ 7.6
法人税等合計	1,749	2.6	1,597	2.3	△ 151	
中間純利益	3,690	5.6	3,427	5.0	△ 262	△ 7.1
非支配株主中間純利益	16	0.0	22	0.0	5	
親会社株主中間純利益	3,674	5.6	3,405	4.9	△ 268	△ 7.3
平均銅建値 (千円/t)	1,322		1,443		121	9.2

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

12

続きまして、損益計算書の概況のご説明をいたします。

まず、連結売上高はこの中間期689億8200万円、金額で28億円の増加。率で4.3%の増収という形になっております。一方、売上総利益は金額はほぼ横ばいです。マイナスの600万円となり、利益率が15.8%から15.2%と、残念ながら0.6ポイント下がったというところです。この15.2%は、2023年第2Qの利益率に戻ったという形です。昨年特殊要因がございまして、いわゆる電線の品不足という現象が起きました。1メーカーブランドが出荷一時停止となり、他の電線ケーブルまで波及し、機器用通信用電線が通常の用途以外で使用される想定外の動きとなり、比較的利益を確保している商品群が販売されたというところで、粗利率が上がってございました。それが今回15.2%まで落ちた、戻ったこととなります。

続きまして販管費です。56億6900万円、金額にして3億円、率5.6%の増加となっております。内訳は先程社長も説明した通り、人件費がほぼ半分、残りは設備管理費、事務管理費がアップしております。特に人件費はここ数年の物価高、あとは新卒者の初任給の高騰等もございまして、我々も今年だけではなく、昨年一昨年とベースアップを含めて、賃上げを行ってまいりました。人件費が相対的に前年に比べてコストアップになっております。この3億円が営業利益にそのまま影響し、47億円、金額で3億600万円の減少、率で6%の減益となります。これに営業外収益、費用を加減いたしまして、経常利益も3億200万円の減少となり、50億2500万円で、率5.7%の減益となっております。また、法人税は金額を下げており、最終の中間利益は2億6800万円のマイナスと、率にして7.3%の減益という着地になっております。ということで、増収でありながら、コスト高となり、残念ながらこの中間期は減益という形の決算となっております。表の一番下の平均銅建値、これも先程説明した通り、この中間期は率にして9.2%アップという形になっております。

(百万円)



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

13

続きまして、四半期別の売上高の推移です。

この3ヶ月ごとの売上高をご覧いただきたいと思います。

この直近の第2Qは、2月3月4月の実績321億円という数字になっています。

これは前年同期の3ヶ月とほぼ横ばい、その前の期に比べても大体この2月3月4月はこの数字で推移しております。

ただし、銅価格は緩やかに上がっていますので、残念ながら販売数量が落ちています。

電線工業会の発表によると、この3月4月はいずれも前年から15%ダウンになっています。

我々はそこまでは落ちてはいませんが、販売数量が落ちたところは銅価格のアップで補えているという形になっております。

また、前年第4Qと今期第1Qですが、金額は370、360億円とそれぞれ大きく跳ね上がっていますのは、北海道の半導体製造工場です。その分がこの第4Q、第1Qの一部、あとは首都圏のデータセンター等の大型案件がそれぞれの期に数字として上がっております。

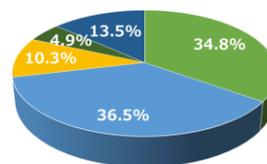
商品別売上高（単体）



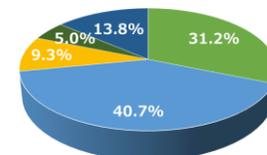
（単位：百万円）

	2024年10月期		2025年10月期		増減	
	2Q実績	(構成比)	2Q実績	(構成比)		(前期比)
● 機器用・通信用電線	21,847	34.8%	20,409	31.2%	△ 1,438	△ 6.6%
● 電力用ケーブル	22,891	36.5%	26,560	40.7%	3,669	16.0%
● 汎用被覆線	6,439	10.3%	6,086	9.3%	△ 353	△ 5.5%
● その他電線	3,140	4.9%	3,237	5.0%	97	3.1%
● 非電線	8,461	13.5%	9,016	13.8%	555	6.6%
合計	62,780	100.0%	65,309	100.0%	2,529	4.0%
平均銅建値 (千円/t)	1,322		1,443		121	9.2%

2024年10月期_2Q実績



2025年10月期_2Q実績



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

14

続きまして、商品別です。これは泉州電業単体の商品群の内訳になります。

一番上が機器用通信用電線、いわゆるFAケーブルです。

こちらが14億円のマイナス。率にして、マイナスの6.6%、半導体製造装置向け、工作機械向けの需要が減っているということと、先程申し上げた前年の電線の品不足分が今期なくなっているというところでマイナスとなっております。

一方、2つ目の電力用ケーブルは主に建設用に使われるケーブル類ですが、金額で36億円アップしております。社内構成も40%まで上がっており、率で16%と大幅な増加となっております。

これは先程申し上げた大型の建設案件の出荷が旺盛だったということと、銅価格の上昇により、電力用ケーブルは数字を大きく上げております。次に、汎用被覆線は一般住宅用に使われるものが主で、こちらもマイナスの3億5300万円、率で5.5%のマイナスとなっております。

いわゆる一般の住宅用、建設用の汎用品は、やはり電材店を初め、先買いがございました。その影響で今期数字を落としたという形にはなっております。

続きまして、その他電線は銅の芯線そのものを中小の電線メーカーに販売しております。

銅価の変動によって数字も若干プラスマイナスが起こるということで、こちらは前年に比べて9700万円の増加となっております。

最後の非電線です。電線以外のものということで、先程のビジネスモデルで申し上げたケーブルアセンブリ、加工品もこの非電線に入っております。

昨年まで低調でしたが、ようやくこの中間期でハーネス加工は若干戻ってきております。半導体製造装置関係、工作機械も少し明るい兆しが見え始めているのかなという感じはいたしております。

金額でも5億5500万円の増加と、率で6.6%のアップとなっております。

泉州電業単体は記載の通り653億円、金額で25億円、率で4%の増収となっております。

連結通期予想・見通し（2024年12月9日発表）



(単位：百万円,%)

	2024年10月期		2025年10月期			2024年10月期		2025年10月期		
	2Q実績	構成比	2Q実績	構成比	前期比	実績	構成比	予想	構成比	前期比
売上高	66,125	100.0	68,982	100.0	4.3	136,153	100.0	140,000	100.0	2.8
営業利益	5,104	7.7	4,798	7.0	Δ 6.0	10,349	7.6	11,000	7.9	6.3
経常利益	5,327	8.1	5,025	7.3	Δ 5.7	10,761	7.9	11,200	8.0	4.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,674	5.6	3,405	4.9	Δ 7.3	7,578	5.6	7,700	5.5	1.6
平均銅建値（千円/t）	1,322		1,443		9.2	1,409		1,450		2.9

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

15

それと業績予想ですが、先程社長から説明があった通り、今回据え置きしております。

この中間期ですが、当初予測より数字が利益面、若干下振れをしておりますが、この下半期残りの6ヶ月で挽回は可能だという判断で据え置きをさせていただきます。

理由は、まず建設需要。これは上期の流れをそのまま踏襲して、需要が旺盛というところに加えて、銅平均が現在145万円で動いており、緩やかながら堅調に推移しているところで、安定的な数字が残せるだろうというのが1つです。あとは先程より申し上げている通り、やはり我々という直需部門ですが、製造装置関係向けのケーブルアセンブリも含めて戻り、この下半期の後半に何とか数字がここに反映されれば、この数字も達成可能というところで据え置きとさせていただきます。

連結貸借対照表の概況



(単位：百万円)

	2024/10	2025/10_2Q	増減		2024/10	2025/10_2Q	増減
現金・預金	30,513	33,738	3,225	支払手形・買掛金	48,676	45,180	△ 3,495
受取手形・売掛金	26,451	21,050	△ 5,400	短期借入金	381	381	0
電子記録債権	13,149	11,990	△ 1,159	1年内償還予定の社債	14	14	—
有価証券	20	—	△ 20	未払法人税等	2,262	1,606	△ 655
商品	8,046	8,365	319	賞与引当金	852	842	△ 10
仕掛品	194	135	△ 59	その他流動負債	1,732	1,484	△ 248
原材料及び貯蔵品	294	239	△ 55				
その他流動資産	772	322	△ 449				
流動資産合計	79,442	75,842	△ 3,599	流動負債合計	53,920	49,510	△ 4,410
有形固定資産	21,887	22,733	845	社債	28	21	△ 7
無形固定資産	245	207	△ 37	退職給付に係る負債	2,224	2,255	30
投資その他の資産	10,881	11,107	226	その他固定負債	680	706	24
固定資産合計	33,014	34,048	1,033	固定負債合計	2,935	2,984	48
				負債合計	56,856	52,494	△ 4,361
				資本金	2,575	2,575	—
				資本剰余金	700	700	—
				利益剰余金	53,760	54,123	363
				自己株式	△ 3,997	△ 2,486	1,510
				株主資本計	53,038	54,912	1,873
				包括利益累計額	2,172	2,033	△ 138
				新株予約権	22	29	7
				非支配株主持分	368	421	53
				純資産計	55,601	57,396	1,795
資産合計	112,457	109,891	△ 2,565	負債・純資産合計	112,457	109,891	△ 2,565

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

16

続きまして、貸借対照表の概況のご説明をいたします。

この中間期は1098億9100万円で、25億円マイナスになっております。

主な内容は、流動資産が35億円のマイナス、中身は現預金32億円増えていますが、売掛債権の手形・売掛金が54億円、電子記録が11億円と、それぞれマイナスになっております。

右側の流動負債は仕入債務が34億円減っております。

一方、固定資産は設備投資を行いました。

名古屋のFAセンター、子会社のnbsの新社屋、こちらで8億円の増加という形になっております。

一方、株主資本は昨年度の利益の剰余金の積み上げ分と、あとは自己株式の取得と消却で、自己株式は減っております。

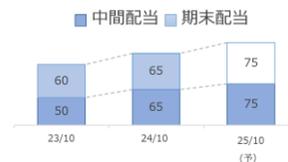
消却と取得で差し引き15億1千万円の自己株式の減少という形になっています。

バランスシート、総じてマイナス25億円となり、やはり業績を反映した部分もございまして、売掛債権、仕入債務が減少しております。

1 配当金（20円増配の年間150円予想）

安定的な配当を基本方針とし、業績・内部留保等を考慮し、総合的に判断して配当を実施。

2025年10月期は**中間配当75円（当初予想70円）**
期末配当75円予想（当初予想70円）となり、
 前期から20円の増配予想。



2 自己株式の取得及び消却

株主還元の充実と資本効率の向上及び経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、自己株式を取得中。尚、同理由により自己株式を消却済。

- ・取得し得る株式総数 **200,000株**（上限）
- ・取得価額総額 **1,000,000,000円**（上限）
 （取得期間 2025年5月1日～2025年10月31日）

3 株主優待（年1回100株以上保有株主様）

1年未満：1000円分のオリジナルQUOカード
 1年以上：2000円分のオリジナルQUOカード

- ・消却株式の総数 **500,000株**
- ・消却後の発行済株式総数 **18,000,000株**
 （消却日 2025年5月14日）

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

17

最後に、株主還元策ですが、ハイライトでも申し上げたようにまず配当金、昨年度の実績が年間130円、今期が年間150円ということで、昨日発表をいたしております。

続きまして自己株式、こちらの取得消却、これも既に発表しております。

この5月以降、自己株式の取得、それと5月14日に50万株消却の実施をしております。

あとは株主様に優待を継続で行っております。

3. 中期経営計画（2024年12月9日発表）

中期経営計画 SS2027 : 目標



2023年12月7日公表の2026年10月期を最終年度とする「泉州電業グループ中期経営計画」（連結売上高：1,500億円、経常利益：100億、ROE：10.0%以上）を2年前倒しで目標を達成したため、新たに2027年10月期を最終年度とする「泉州電業グループ中期経営計画」を策定した。

	2024年10月期 実績	2027年10月期 目標		今後の取り組み	
連結売上高	1,361億円	1,600億円	+17.6%	ROE ≥15%	収益力の更なる向上
経常利益	107億円	130億円	+21.5%		
ROE	14.4%	15%以上	+0.6pt	配当性向 ≥35%	株主還元の実現
配当性向	30.1%	35%以上	+4.9pt	総還元率 ≥50%	
株主総還元率	48.0%	50%以上	+2.0pt		
PBR	1.62倍	2.0倍以上	+0.4倍	PBR ≥ 2倍	IR(投資家)、SR(株主)活動の強化

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

19

続きまして、昨年12月9日に発表しました中期経営計画ですが、内容は全く同じものです。

先程今期の予想の据え置きを申し上げた通り、中期の中身も現在のところは前回発表通りの数字にしております。

2027年10月期の目標が、売上が1,600億円、経常で130億円。ROEは15%以上、配当性向が35%以上、総還元が50%以上で、PBRが2.0倍以上です。

今時点の株主還元率は一時的ですがクリアになっています。

期末の予測では配当性向が若干まだ足りないという状況です。

	2024年10月期		2025年10月期-2027年10月期		業種
半導体関連 		・ AI需要増 ・ 製造業者の在庫調整		・ AI需要継続	直需 電材
工作機械関連 		・ 製造業者の在庫調整		・ 製造業者の在庫調整終了	
自動車関連 		・ 堅調に推移		・ EVの加速、蓄電池	
再生可能 工不関連  		・ 太陽光発電増		・ 太陽光、洋上風力発電需要継続	電材
建設関連 		・ 大型半導体工場 ・ 再開発、データセンター		・ 大型製造工場 ・ 再開発、データセンター	電設
銅価格		・ 急激な上昇		・ 緩やかな上昇	—

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

景況感はまた期末に見直しをかけた다고考えています。

オリジナル商品開発及び加工部門強化で直需部門の売上UP	<p>2027年10月期</p> <p>直需売上シェア 26% ▶ 30%</p> <p>非電線売上シェア 13% ▶ 17%</p>
自社ブランド含む非電線商品の開発及び拡販、新分野の開拓	
関東地区営業強化及びその他地区のシェア拡大	
JUST IN TIME体制の充実	設備投資 (P.22)
グローバル展開の強化 (グループ収益向上)	グローバル長期目標 連結売上比率30% インドへ進出
サステナビリティ経営	ESGの重要課題 (マテリアリティ) に対する取り組みの推進 (P.24)
泉州変革プロジェクトの推進	

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

21

実施内容はこの項目です。これは長年の課題を踏まえて、こちらの内容を粛々と実行していくというところではあります。

特に直需関係の売上ですが、かなり率を落としています。やはり30%近くまでいかないとその利益の達成率は難しいという判断をしております。

財務戦略

キャッシュアロケーション(2025年10月期-2027年10月期)

営業活動により創出する
キャッシュより財務健全
性を確保し、投資と株主
還元に分する。



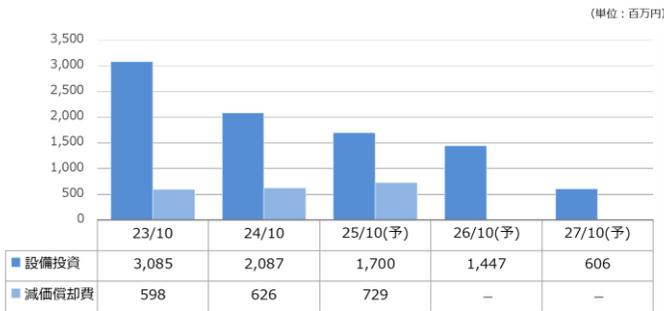
SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

22

あとはキャッシュアロケーションです。

投資の金額の中身がまだ積み上がっていないところです。

中期経営計画 SS2027 : 設備投資と減価償却費



2025年10月期	設備投資理由
名古屋FAセンター (2025年4月開設)	ケーブルアッセンブリー、制御盤組立て等
2026年10月期	設備投資理由
沖縄営業所 (現、沖縄物流センター)	業容拡大等に伴い営業所を開設



写真: 名古屋FAセンター

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

ここでは実際決定している分だけをお示ししています。

2025年10月期、名古屋のFAセンターは終わりました。

今計画で実進行していますのは沖縄営業所です。

こちらは2026年10月期となっておりますけども、若干遅れるとも聞いておりますので、また確定次第この数字も反映させていきたいと思えます。

あとここには記載していませんが、今計画を立てていますのは、滋賀県の草津にあります草津FAセンター（ハーネス加工、制御盤の製造）の増築計画と、あとは本社、大阪の吹田に営業部門と管理部門の統合した社屋の計画も進めているところです。

金額確定次第、お知らせをしたいと思います。

新分野開拓

ソイルヒーター



アグリ事業で2027年までに

年間売上高10億円

*2024年9月リリース（アビルヒーターを改良）

農業用地中加温ビニール線

ビニールハウス等の土壌を直接温めることでCO2の排出削減に寄与し、生育スピードが早まることで**収穫回転率（サイクル）**を上げる。



SDGsに貢献

燃料を使用するボイラーに代わり、ビニールハウス内を温めることから**脱炭素、省エネ**製品。



その他

農業関連の展示会へも出展しPR。新聞等のメディアPR。試験農場の様子はYouTubeにて配信中。



2025年日本国際博覧会「TEAM EXPOパビリオン」へ参加

アグリ事業担当を中心とした泉州電業アグリチームは、「新しい未来スマート農業で、地球環境にも人にも優しい農業を！」の取り組みを、「TEAM EXPO 2025」プログラム/共創チャレンジとして登録されています。同プログラムの参加者として、「TEAM EXPOパビリオン」へ参加いたします。 https://www.senden.co.jp/pdf/financer/ns_241204_a.pdf

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

あとは商品のトピックスということで、毎回お出ししていますが、農業用ビニールハウスの加温するためのヒーター線です。

従来、アビルヒーターという名称でしたが、中身を見直してソイルヒーターという形で新たに販売をしております。

ビニールハウス内の温度管理というのは、農家さん、普通、重油等ボイラーを使用しておりますが、このヒーター線を土の中に直接植えまして、その加温によって、ハウス内を温めるということで、エネルギーコストを下げるのと、CO2の排出も下げるところが狙いです。

それに加えて、作物の育量効果も実際出ているところで、特にいちご農家さんの中では実績が数多く出ています。この商品の取り組みで、今行われている大阪関西万博にこの金土日と3日間、展示することが決まっております。6-7-8の3日間です。

未来農業という切り口で、このソイルヒーターを使って、農家の方の未来が開けるというコンセプトで展示計画をしております。

マテリアリティ（重要課題）		関連するSDGs項目	TOPICS
E	環境保全		<ul style="list-style-type: none"> ●2024年12月 コーポレート・ガバナンス報告書 ●2025年1月 コーポレート・ガバナンス報告書
S	人権の尊重と配慮 働きがいのある職場環境の整備 安定的な商品供給とサービスの供給		<ul style="list-style-type: none"> ●2025年2月 「泉州電業グループ 統合報告書2025」発刊 https://www.senden.co.jp/finance/data/integrated-report/2025/02/2025.php ●2025年3月 「健康経営優良法人2025」認定 <p>「2024環境報告書」発刊</p>
G	ガバナンスの強化		<ul style="list-style-type: none"> ●2025年4月 子育てサポート企業として 「くるみん認定」取得

「くるみん認定」の取得

当社は、次世代育成支援対策推進法に基づき、厚生労働省より「子育てサポート企業」として「くるみん認定」を取得いたしました。この認定は、従業員が仕事と育児を両立できる環境を整えるための具体的な取り組みが評価された結果です。育児休業制度の充実や職場環境の改善を通じて、従業員が安心して働ける環境作りを推進してまいりました。

今回の認定を契機に、多様な働き方を支援し、社員の幸福と企業の成長を両立させるため、更なる働きやすさの向上に努めてまいります。



あとはサステナビリティ経営です。

今回トピックさせていただいているのは、くるみんの認定が取れたということで、従業員の働き方改革、働きやすさも含めて、いろんな意味で諸施策を実行するというので、お知らせいたします。

4. 参考資料

電線には「銅電線」「アルミ電線」の2種類があり、当社が取り扱うほとんどが「銅電線」である。銅電線の主材料である銅の価格（銅建値）は、電線を販売する上で重要。銅建値と売上高の推移は次の通り。

国内銅建値は、LME＝ロンドン金属取引所（London Metal Exchange）の国際銅建値と為替を換算し、JX金属により決定されます。

〈銅建値と月次売上高推移（単体）〉



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

最後、参考資料です。

まず1つ目は毎回お付けしています月次の銅建値と売上高の数値です。

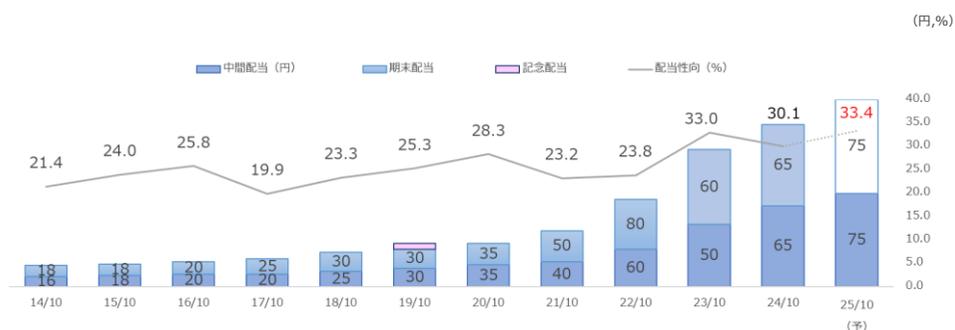
これは泉州電業単体ですが、銅価の上昇と月次の売上高がほぼリンクしています。

直近足元ですが、トランプ関税の影響で、銅価も不安定な時期はございましたが、売上高はリンクしております。

配当金・配当性向の推移



12年連続実質増配予定



(注)当社は2022年11月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して配当性向を算出。

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

あと配当金、配当性向です。

先程申し上げました2027年10月期の35%以上は、今期150円配当を実施し期末の利益を達成しても、まだ33%というところで、まだ2%程の上積みをしなければ目標達成しないことになっております。

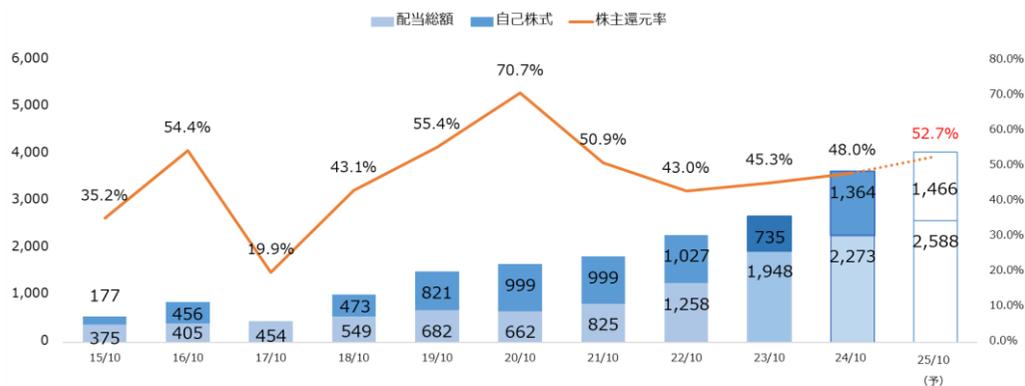
ただし配当はおかげさまで12年連続の増配で計画しております。

株主還元（配当＋自己株式取得）の推移



(単位：百万円)

配当＋自己株式取得の継続的な株主還元を実施

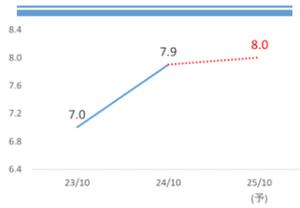


SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

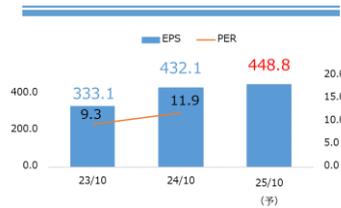
29

あとは還元に関して自己株式の取得等を加え、現時点で期末で52%で、50%以上の還元となっております。

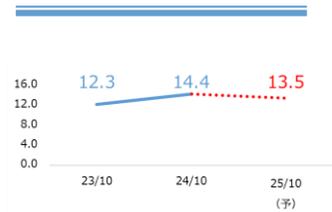
経常利益率 (%)



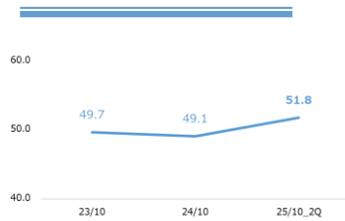
EPS・PER (円,倍)



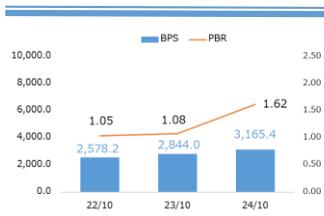
ROE (%)



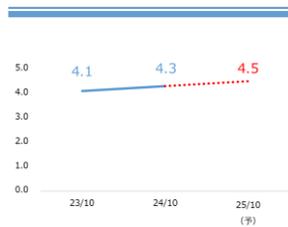
自己資本比率 (%)



BPS・PBR (円,倍)



DOE (%)



SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

あと最後、経常利益率からDOEまで各指標を掲載しております。

中期の目標でありましたROEの数字でいきますと13.5%、株主資本コストが8%前後となり、13.5%という数字は悪くはないんですけども、目標15%以上を掲げておりますので、やはり利益のこれからの拡大が必要というところで注力していきたいと考えています。

	2017年10月期	2018年10月期	2019年10月期	2020年10月期	2021年10月期	2022年10月期	2023年10月期	2024年10月期
売上高（百万円）	74,956	82,038	83,676	74,288	92,463	113,633	124,967	136,153
営業利益（百万円）	3,202	3,868	3,979	3,124	4,743	7,464	8,366	10,349
経常利益（百万円）	3,455	4,105	4,206	3,382	5,004	7,894	8,770	10,761
親会社株主に帰属 する当期純利益（百万円）	2,289	2,371	2,714	2,351	3,583	5,314	5,920	7,578
営業利益率	4.3%	4.7%	4.8%	4.2%	5.1%	6.6%	6.7%	7.6%
自己資本比率	58.0%	56.8%	57.7%	59.8%	50.9%	48.4%	49.7%	49.1%
ROE	6.4%	6.3%	7.0%	5.9%	8.6%	12.0%	12.3%	14.4%
期末株価*	1,255円	1,304円	1,425円	1,446円	2,382円	2,696円	3,085円	5,130円
1株当たりの純資産額*	1830.83円	1921.82円	2047.40円	2147.90円	2342.59円	2578.24円	2843.95円	3165.42円
PBR	0.69倍	0.68倍	0.70倍	0.67倍	1.02倍	1.05倍	1.08倍	1.62倍
年間配当	45円	55円	70円	70円	90円	140円	110円	130円
配当性向	19.9%	23.3%	25.3%	28.3%	23.2%	23.8%	33.0%	30.1%
株主総還元率	19.9%	43.1%	55.4%	70.7%	50.9%	43.0%	45.3%	48.0%

2017年11月 東京証券取引所第1部へ上場

2022年4月 東京証券取引所プライム市場へ上場

* 2022年11月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行ったため、期末株価及び1株当たりの純資産額の2021年10月期以前の数値は1/2で表示しております

SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.

31

最後、過去当社一部上場からの推移です。また機会があればご覧ください。

ご清聴ありがとうございました



東京証券取引所 プライム市場
コード 9824

泉州電業株式会社

私からのご説明は以上となります。
どうもありがとうございました。

掲載内容に関する注意事項

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。将来の業績は、様々な要素により、これらの業績見通しとは異なる結果となりうることに留意下さい。本資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なって下さい。
万が一この情報にもとづいて被ったいかなる損害について、弊社及び情報提供者は一切責任を負いません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。
尚、情報は常に最新情報を反映しているものではないことをご承知おき下さい。

